

ヒラメ *Paralichthys olivaceus*

地方名：あおば、てっくい



生態

- ①寿命：オス 10 年以上、メス 20 年以上
- ②成熟：オス 2 歳以上、メス 3 歳以上
- ③産卵期：5 月～7 月
- ④産卵場：水深 30m 以浅の粗砂及び砂礫地帯
- ⑤分布：千島列島から九州、東シナ海に分布
- ⑥生態：産卵後 1 日～2 日でふ化し、約 1 ヶ月間の浮遊期間の後に水深 10m 以浅の砂または砂泥域に着底し、成長に伴い深所へ移動する。生息域は水深 100m 以浅の海域。季節的に深浅移動する。稚魚はアミ類を主に摂餌し、成長とともに魚類、イカ類を捕食する。

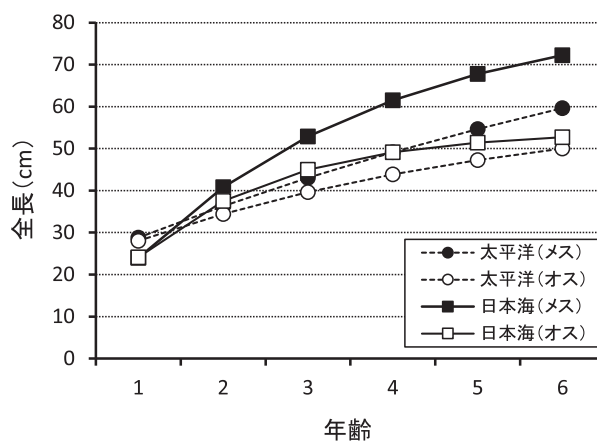


図 青森県におけるヒラメの成長

出典：太平洋：Yoneda et al. (2007) Fisheries Science. 73, 585-592.

日本海：吉田ら (2011) 青産技セ水研研報. 7, 1-8.

主な漁業

ヒラメはほぼ周年にわたって県内全域で漁獲される。日本海から津軽海峡西部にかけては 5 月～7 月に底建網・一本釣で、陸奥湾から太平洋北部にかけては 5 月～7 月及び 11 月～翌年 1 月に定置網・底建網・刺し網で、太平洋南部では 9 月～10 月に刺し網で、11 月～翌年 5 月に小型底びき網で漁獲される。1 歳、2 歳から漁獲される。

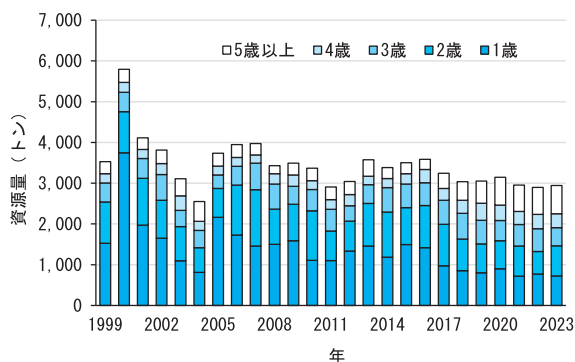


図 青森県のヒラメの年齢別資源量の推移

資源の動向と水準

青森県の資源量は 2000 年に 5,796 トンと 1999 年以降最高となったが、翌 2001 年に減少に転じ 2004 年に 2,551 トンとなった。2005 年に 3,736 トンに増加し、以降は増減しながらも横ばいであったが、2017 年から減少から横ばい傾向となり、2023 年の資源量は 2,941 トンであった。

2024 年の資源動向は、コホート解析により推定した資源量の 2019 年～2023 年までの直近 5 年間の傾きから横ばいと判断した。資源水準は、推定した資源量と過去の漁獲量の推移を判断材料とし、中位と判断した。



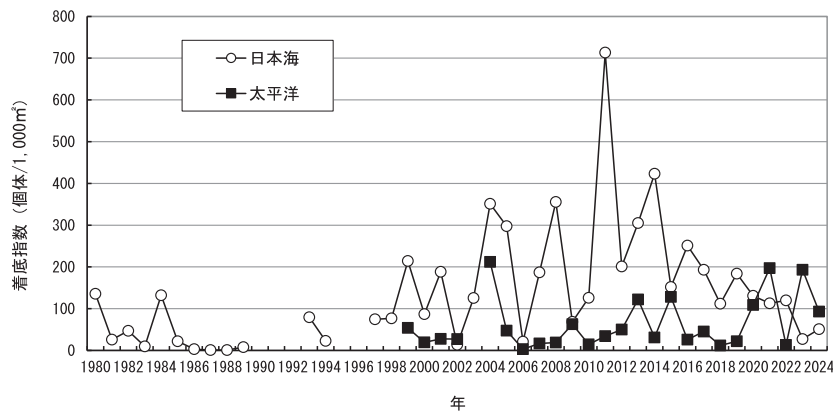


図 発生年別ヒラメの年齢別資源尾数と着底指数の推移

(日本海ヒラメ稚魚発生量)

2024 年のヒラメ稚魚の着底指数は 51 で、1980 年以降の平均値 144 を下回る水準であった。

(太平洋ヒラメ稚魚発生量)

2024 年のヒラメ稚魚の着底指数は 93 で、1999 年以降の平均値 62 を上回る水準であった。

* 着底指数：発生量の指標値。日本海はつがる市沖、太平洋は三沢市沖で夏期に着底稚魚調査を実施。水深別の平均分布密度（個体/1,000m²）の年最高値。

海域別漁獲量及び漁獲金額

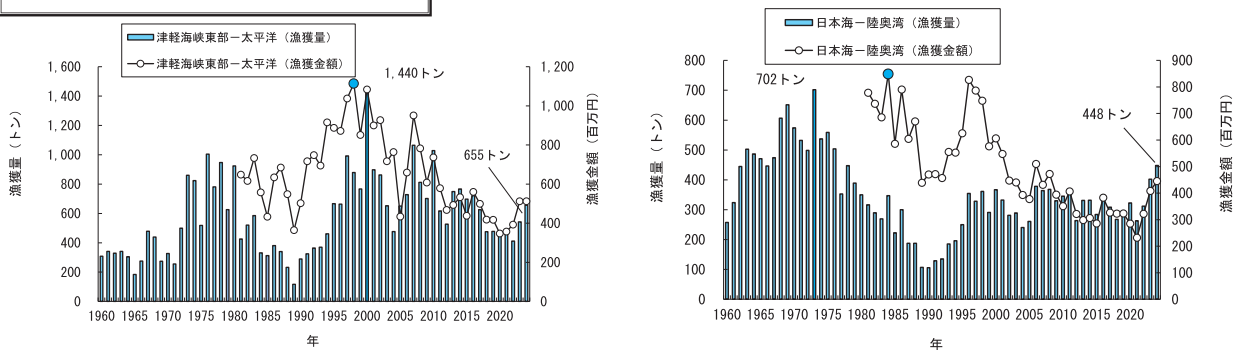


図 青森県におけるヒラメの海域別漁獲量及び漁獲金額の推移

* 日本海-陸奥湾海域：大間越漁協から小泊漁協に、津軽海峡西部の竜飛今別漁協、三厩漁協、陸奥湾の外ヶ浜漁協から脇野沢村漁協を含むものとした。

* 津軽海峡東部-太平洋海域：階上漁協から尻屋漁協に、津軽海峡東部の佐井村漁協から岩屋漁協を含むものとした。

資源を上手に利用するために

○ひらめ資源管理指針（1990 年 3 月）、資源管理計画（日本海：1994 年 3 月、太平洋：1996 年 3 月）

- ・全長 35cm 未満個体の再放流の他、刺し網についてはひらめ網の目合制限（6.0 寸以上）、三枚網の禁止、留網の禁止などを定めている。

○青森県太平洋海域ヒラメ資源回復計画（2008 年 3 月）

- ・小型ヒラメの保護を推進するため、刺し網漁業では 9 月～12 月の水深 10m 以浅の区域、小型機船底びき網漁業は北緯 41 度以南の水深 100m 以浅の区域におけるヒラメを目的とした操業の自粛を定めている。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・1988 年に「県の魚」に制定される。
- ・年間 100 万尾の計画で種苗放流が行われており、2024 年の放流尾数は 104.1 万尾。